

荒尾を知ろう！（郷土資料 人物編）おすすめ本リスト

ふるさとを創った先人・先哲、荒尾市にゆかりのある各界の著名人を知ることができる「人物編」の資料たちです。

荒尾市立図書館ブックリスト No.24

「郷土資料 人物編」 2024.5月

No		
1	<p>俊苅 (しゅんじょう) * 月輪大師 (がちりんだいし)</p> 	<p>真言宗泉涌寺派の宗祖とされる鎌倉時代の肥後の僧。諡号：月輪大師（がちりんだいし）。1199年（正治元年）に中国（宋）に学び、帰国して北京律（ほっきょうりつ）をおこした。荒尾の小岱山の筒ヶ岳が中国の泰山に似て霊気があることから寺（筒ヶ岳正法寺）を構え、次第にその名が高まり百人を超す学僧が集った。 『荒尾史話 第一巻』（麦田静雄著）【A219.4 ムキ】 『市制五十周年記念 あらお』（熊本日日新聞情報文化センター）【A219.4 クマ】 『熊本県大百科事典』（熊本日日新聞社）【A219 クマ】</p>
2	<p>小代氏</p> 	<p>古く平安時代から武蔵の国を治め「児玉党」を構成していた氏族。（武蔵国比企郡小代郷は力士の小代とゆかりがある）1247年（法治元年）に野原の荘の地頭となったことから荒尾を治め、以後南北朝～戦国時代に亘って活躍した。肥後国衆一揆後は加藤家に仕え、そののちは細川氏の家臣となったことがわかっている。 『荒尾市史 通史編』（荒尾市史編纂）【A219.4 アラ】 『よみがえれ 小代武士団』（國武慶旭）【A219.4 クニ】 『浄業寺と小代氏』（荒尾市教育委員会）【A219 アラ】 『図説熊本県の歴史』（平野敏也編）【II219.4 スセ】</p>
3	<p>月田蒙斎 (つきだ もうさい)</p> 	<p>野原八幡宮神官をつとめる月田家に生まれ、刻苦勉勵をし熊本市～京都の塾に入った。「月田塾」をひらき、宮崎八郎をはじめ500余りの人がその門を叩いたと言われる。1863年、57歳の時に（1863年）熊本県の藩校「時習館」の訓導（先生）に抜擢された。小岱山には月田蒙斎の歌碑が立つ。 『月田蒙斎・楠本端山』（難波征男・岡田武彦）【A121 ツキ】 『幕末の学者 月田蒙斎』（土田綱喜）【A289 ツチ】 ★『歴史玉名』81・90・96号（「歴史玉名」編集委員会）【I 209 レキ】</p>
4	<p>孫文</p> 	<p>辛亥革命を起こした中心人物。中国における皇帝政治（清朝）を倒し、アジアで最初の共和制国家を樹立した意義のある革命である。荒尾の郷土、宮崎家は日本に亡命中の孫文を匿い、また、滔天は犬養毅に引き合わせるなど支援を行った。 『アジア主義における孫文と滔天』（武田清子）【A289 タケ】 『梅屋庄吉と孫文』（読売新聞西部本社／編）【A289.1 ウメ】 『逆説の日本史 27』（井沢元彦）【210.0 イサ】 『三民主義〈抄〉ほか』（孫文）【311.2 ソン】 『素顔の孫文』（横山宏章）【289.2 ソン】 ★『孫文選集1～3』（孫文）【A308 ソン】 『孫文と長崎』（横山宏章）【A289 ソン】 『孫文 百年先を見た男』（田所竹彦）【289.2 タト】 『辛亥革命100周年 千万年光かがやく友情』（荒尾市）【A283 ソン】 『革命浪人 滔天と孫文』（三好徹）【A913 ミヨ】 『アジア人物史 9』（姜尚中総監修）【282 カン】 『逆説の日本史 27』（井沢元彦）【210.0 イサ】</p>

No		
7	<p>柳原白蓮 (やなぎわら びゃくれん)</p> 	<p>革命家孫文を日本で支えた宮崎滔天の息子・龍介と結婚。その美貌から「大正三美人」の一人に数えられる。佐佐木信綱主宰の短歌結社竹柏会に入門。歌集「踏絵」「幻の華」などを発表。 『荊棘の美』（柳原白蓮）【A916 ヤナ】 ★『戯曲 指鬘外道』上・下（柳原白蓮）【A912 ヒヤ】 『ことたま』（柳原白蓮）【A914.6 ヤナ】 『踏絵』（柳原白蓮）【A911.1 ヤナ】 『柳原白蓮の生涯』（宮崎落莖／監修）【A911.1 ヤナ】</p>
7	<p>荒木郁子</p> 	<p>明治、平塚らいてうらは文芸雑誌「青踏」を刊行。文芸活動を通じて女性の社会的地位向上を訴えた。荒尾市出身の父を持つ荒木郁子は青踏の同人で「青踏」は郁子の小説で第1回目の発禁処分を受けている。（俳優で歌手の荒木一郎は荒木郁子の姉（滋子）の子、女優の荒木道子の息子） 『荒尾にゆかりの「青踏」作家 荒木郁子』（中尾富枝）【A910 アラ】 『「青踏」の火の娘』（中尾富枝）【A281.0 カ】 『空に星があるように 小説荒木一郎』（荒木一郎）【A913.6 アラ】</p>
8	<p>余田末人 (よでん すえと)</p> 	<p>大正10年7月～大正14年7月、昭和8年6月～昭和9年12月まで荒尾町長を務め、近代の荒尾・大牟田地域の施策に深く携わった。玉名銀行や、野田卯太郎他と協力し大牟田に九州肥料株式会社を設立。徳富蘇峰とも同年で親交があった。父正規（ただき）は横井小楠の門人で息子は余田弦彦。（高知高校寮歌「豪気節」や「酋長の娘」を作詞作曲。桂浜に「豪気節碑」が建てられている） 『余田末人回顧録』（荒尾市史編集委員会）【A289.1 ヨテ】 ★『余田弦彦遺稿集』【A289 ヨテ】</p>
9	<p>麦田静雄</p> 	<p>小学校教員を経て、荒尾市に転居したのをきっかけに荒尾の郷土史研究を行う。昭和39年から荒尾市の歴史を記した『荒尾史話』を刊行。全国の写真集シリーズ『ふるさとの思い出写真集 荒尾』を編著。荒尾を代表する郷土史家。 『荒尾史話』1～4（麦田静雄）【A219.4 ムキ】 『写真集 荒尾』（麦田静雄）【A219.4 ムキ】 『肥後辯』（麦田静雄）【A818 ムキ】 『荒尾の昔話』（麦田静雄）【A388 ムキ】</p>
10	<p>福島作蔵</p> 	<p>荒尾を代表する郷土史研究家のひとり。教員、熊本県文化財保護指導員、肥後金石研究会顧問、荒尾市文化財保護委員を歴任。市の歴史講座の講師をつとめる。また、写真や拓本などフィールドワークによる貴重な文化財資料を記録。 『荒尾の祭り』（福島作蔵）【A386 フク】 『野原の庄』（荒尾市中央公民館郷土の歴史講座）【A219 キヨ】 『荒尾の石造物（荒尾市埋蔵文化財報告書第九集）』（肥後金石研究会 荒尾市教育委員会）【A387 サカ】 『長洲町史』（長洲町史編纂委員会）【I 219 ナカ】</p>

No		
5	宮崎兄弟	<p>宮崎家は荒尾村の郷土（有事の際に武士になる）で、中でも幕末～明治時代に活躍した四兄弟（宮崎八郎・民蔵・彌蔵・寅蔵）が有名。西欧列強によるアジア支配に危機を感じ、アジアの独立と自由平等の実現に奔走した。特に宮崎彌蔵、寅蔵（滔天）は中国革命の父・孫文を支援。現在も荒尾にはその生家が資料館として残されている。</p> <p>『宮崎滔天全集』（1～5集）【A204 ミヤ】 『宮崎滔天 三十三年の夢』（宮崎滔天）【A289.1 ミヤ】 『日本からシンガポールへ 宮崎兄弟と孫文とシンガポールと辛亥革命』（荒尾市）【A289.1 ミヤ】 『評伝 宮崎滔天』（渡辺京二）【A289 ミヤ】 『土地均亨 人類の大権』（宮崎民蔵）【A316 ミヤ】 『上井手 宮崎家文書』（宮崎英民）【A219 カミ】 『宮崎滔天 万国共和の極楽をこの世に』（榎本泰子）【A289 ミヤ】 『夢翔ける 宮崎兄弟の世界へ』（上村希美雄）【A289.1 ミヤ】 『龍のごとく』（上村希美雄）【A289 ウエ】 『宮崎滔天のロマンと人生』（佐藤常雄）【A289 サト】 ★『宮崎八郎の生涯』（瀬口吉之助）【A289 ミヤ】 『謀叛の児』（加藤直樹）【A289 ミヤ】 『吾ガ信仰 人生行路の案内』（宮崎民蔵）【A159 ミヤ】 ★『支那革命軍談』（宮崎滔天）【A289 M1】 『孫文の辛亥革命を助けた日本人』（保阪正康）【A289 ホサ】 『宮崎兄弟関係文献目録』（塚本秀樹）【A025 ツカ】 ★『宮崎世民回想録』（宮崎世民）【A289 ミヤ】 『『草枕』の那美と辛亥革命』（安住恭子）【II289 マI】 『図説熊本県の歴史』（平野敏也編）【II219.4 スセ】</p>
6	海達公子 (かいたつきみこ)	<p>大正5（1916）年に荒尾に生まれた少女詩人。鈴木三重吉主宰の雑誌『赤い鳥』にその作品が何度も掲載された。みやま市出身の与田準一や北原白秋、若山牧水にもその才能を認められ、みずみずしい児童自由詩を多く発表。荒尾市内に歌碑がある。</p> <p>『海達公子遺稿詩集』（延原慶三編）【A911 ノヘ】 『海達公子 童謡集』（海達公子）【A911.5 カイ】 『海達公子児童自由詩の分析と評価』（規久川佑輔）【A904 キク】 『海達公子評伝』（規久川佑輔）【A911 キク】 『「赤い鳥」時代における海達公子の児童自由詩』（規久川佑輔）【A904 キク】 『海達公子作品に及ぼした父親の影響』（規久川佑輔）【A904 キク】 『少女詩人 海達公子の発掘』（規久川佑輔）【A910.2 キク】 ★『与田準一と海達公子論 その人物と詩作をめぐって』（規久川佑輔）【A904 キク】 ★『赤い鳥事典』（赤い鳥事典編集委員会）【909 アカ】 『詩とメルヘン 第31号 1月号』（サンリオ）【A911 シト】 『スーパーベイビー 5』（丸顔めめ）【Mマル 5】</p>

【】は分類記号です ★マークは貸出しができません

No		
11	坂村真民	<p>明治42年荒尾市生まれ。戦後愛媛県に移り住み、高校教員退職後に詩誌『詩国』を創刊し平成16年95歳まで通算500号を発行する。詩人。かつての生家の近くのふもと窯（荒尾の伝統的工芸品小代焼窯元）には「念ずれば花ひらく」の碑が建つ。</p> <p>『坂村真民全詩集 1～8』（坂村真民）【A908 サカ】 『詩集 念ずれば花ひらく』（坂村真民）【A911 サカ】 『詩集 二度とない人生だから』（坂村真民）【A911 サカ】 『詩集 宇宙のまなざし』（坂村真民）【A911 サカ】 『しんみん 山の本』（坂村真民）【A911 サカ】</p>
12	西山胡鬼	<p>俳句雑誌「京鹿子」主宰の鈴鹿野風呂氏門下となり、同誌同人となる。昭和7年発足の「荒尾句会」指導選者・後藤是山氏100歳を機に「荒尾句会」を継承。荒尾市文化連合会会長をつとめながら荒尾市の俳壇勃興に尽力。</p> <p>★『句集 雲』（西山胡鬼）【A911 ニシ】 『句集 海』（西山胡鬼）【A911 ニシ】 『記念合同句集 漁火』（西山胡鬼）【A911 ニシ】 『句文集 追想記』（西山胡鬼）【A911 ニシ】</p>
13	岡村じゅん	<p>1928年大牟田市生まれ。疎開先の荒尾で梨づくりに従事しながら詩、俳句、随筆、荒尾の人物をテーマにした演劇の脚本等を執筆。荒尾の文芸振興を担う。文芸誌「塔」、八幡句会、郷土の文化を語り合う会、熊本文化懇話会、荒尾市文化連合会に所属。</p> <p>『郷土人物脚本集 官の飯は食わん』（岡村じゅん）【A912 オカ】 『詩と雑文 なんだかんだ』（岡村じゅん）【A911 オカ】 ★『荒尾ナンシ山物語』（岡村じゅん）【A625 オカ】 『文芸誌 塔』【A918 ノク】 『詩集 親父の勲章』（岡村じゅん）【A911 オカ】</p>
14	井上泰秋 (いのうえ たいしゅう)	<p>国の伝統的工芸品である「小代焼」の窯元で陶芸家。京都の日展作家・森野喜光氏に師事し荒尾市府本にて作陶。日本陶芸展など入選・入賞歴多数。坂村真民との交流、民藝活動の再発見にも尽力するなど荒尾を代表する著名人である。熊本国際民藝館館長、熊本県民芸協会会長等を務め、2023年日本民藝協会長に就任した。</p> <p>『小代焼ふもと窯井上泰秋』（井上泰秋）【A751 イノ】 『土と語り、火とかたる』（井上泰秋）【A751 イノ】 ★『第25回熊本の美術展 小代焼』（熊本県立美術館）【A751.1 クマ】</p>
15	ヒロシ 界達 (かいたつ) か たる 嗣人 (つぐひと)	<p>ヒロシ：荒尾市出身の芸能人 『ヒロシです。』（ヒロシ）【A779 ヒロ】 『ひとりで生きていく』（ヒロシ）【A779.1 ヒロ】 『ヒロシのソロキャンプ』（ヒロシ）【A786.3 ヒロ】 他</p> <p>界達かたる：荒尾市出身の作家 『Jに羽根はいらぬ』（界達かたる）【A913.6 カイ】 『十五の春と、十六夜の花』（界達かたる）【JB913.6 カイ】</p> <p>嗣人：荒尾市出身の作家 『夜行堂奇譚』1～4（嗣人）【A913.6 ツク】</p>